

海とくらし

池間島には、八重干瀬以外にも豊かな漁場がたくさんあります。池間島の北西に腕を大きく広げるように伸びるイラビジとツマビジは、陸から歩いて渡れる巨大なリーフです。大潮になると、老いも若きも男も女も獲物を求めて海を「歩きます」。獲物はサザエ、タカセガイ、シャコガイ、タコ、逃げ遅れた魚など。特に年配の女性はこの潮干狩りが好きで、陸では杖をついていても、リーフの上では走っているとか。

海洋民族を自認する池間の漁師（インシャ）は、潜りや深海一本釣りやマシ類などの高級魚を捕っています。最近では、サメ料理なども人気です。



1. イラビジの潮干狩り／島の大事な食料庫。大潮が近づくとみんなソソソフ。 2. ヒツメヌメヒタへの道／オシイは今から網を張って漁をする。 3. イチモンジブダイ（イラウツ）／名人のオハバはこんな魚も手づかみで捕まえます。 4. ハマダイ（アカマツ）／池間を代表する高級魚。お求めは池間漁師へ。 5. ヒメシャコガイ（ニゲー） 5. チョウセンサザエ（シナ）／潮が引くと現れる海の幸。勝手に採ってはいけません。

海で出会う生きものたち



1. ジンベイサメ（フツスサバ） 2. ツノダン（ユマンブ） 3. シテナヤッコ（マラウイカピッチャ）／眉毛のような模様特徴的

4. ワモンダコ（タク） 5. タイマイ（ベッコウ） 6. ノコギリダイ（イスアカユ） 7. カクレマノミ（アツヴァミーヌスツクガマ）／昔はイソギンチャク（アツヴァミー）も炊いて食べたという

ユウナやアダンの林を抜けると、イラビジ（リーフ）に囲まれた穏やかなビーチに出ます。岩穴をくり抜けるとアガイヌイキツヒビにも続いています。



「ハート岩」で知られるようになったビーチ。夕陽もとてもきれいに見えます。

アダンのある風景

池間島の周囲には、いたるところにアダンが生えています。池間では、アダンは生活に欠かせない非常に重要な植物でした。そのため、他の地域では見られない「石アダン」と「水アダン」という区分があり、その用途も異なっています。

さらに、アダン林は、天然記念物となっている貴重な甲殻類（ヤシガニ、オカヤドカリなど）の重要な生息域となっています。陸と海の栄養循環を繋ぐ重要な機能を担っていると考えられています。



1. 水アダン 2. 石アダン 3. アダンの木に登って実を採る少女（1961年） 4. フダミ（リーフの上を歩くための草履）は頑丈なアダナスで編む

アダンの実はオカガニやヤドカリ、ヤシガニなどの大好物ですが、昔の子供たちにとっても重要なやつでした。

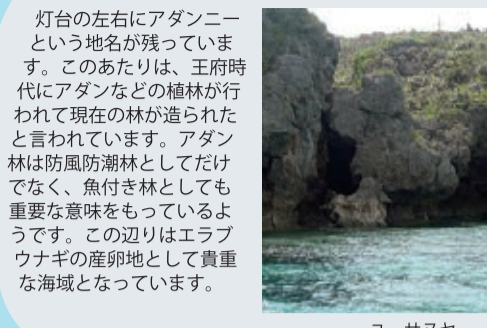
水アダンの気根（アダナス）を割って作られる網は、水に強く良質な繊維であるため、船のロープや生活用具にも利用されてきました。

根木が少ない池間では、アダン葉は最も重要な炊き物でした。また、とげを取り除いて、草履を作ったり、新芽は野菜としても食べられていました。

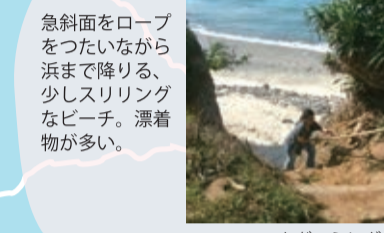
石アダンの幹はまっすぐ伸びるので、建築資材としても利用されてきました。タゲネと曲がる水アダンは、乾燥させて薪として利用されていました。

イキマウツ（池間の言葉）地名の表現

ヒダ・・・浜
タツ・・・崎
トゥガイ・・・岬
ブー・・・入り江
ビシ／ビジ・・・干瀬
ハナリ・・・離れ
ンミ・・・嶺
ンツ・・・道



ユーサヌヤ



急斜面をロープをつたいながら浜まで降りる、少しスリリングなビーチ。漂着物が多い。

カギンミヒダ

イーヌブー（池間湿原）

この湿原は、もともと海とつながった入り江になっており、エビや魚などが豊富に獲れる、島民の食糧庫でした。1963年から1982年にかけて行われた漁港整備で海と遮断され、現在は淡水の湿地となっています。



淡水湿地となった現在では、宮古諸島最大のカモ類の飛来地として、多くの渡り鳥や野鳥を見ることが出来ます。多くのカモ類の他、ムラサキサギ、リュウキュウヨシゴイ、オオハクチョウなどが確認されています。沖縄県内で最大の湿地であり、環境省の日本の重要湿地500にも選定されていますが、現在ではヒメガマなどの植物が繁茂し、陸地化が急激に進んでいます。



1. 1960年代までの入り江の様子 2. サギ類（ユーサ）の群れ／10月～4月頃までが渡りの時期 3. リュウキュウヨシゴイ（キヤガマ） 4. カルガモ（ブスマンガ） 5. ムラサキサギのつがい／池間島が繁殖地の北限

池間島の北海岸イキヌーからイーバタまでの区域は宮古島の条例により「ヤシガニ保護区域」に指定されています。保護区内では一切の捕獲・殺傷は禁止されています。

海辺の植物たち

オオハマボウ（ユウナ）／ハート型の葉や、材木は広く生活に使われてきた

クサトベラ（ツスウキ）／海辺の植物層の中でも最前線に生える

モンバノキ（アラツユキ）／素潜り漁の潜水メガネの枠を作る際によく使われた

グンバイヒルガオ（ハマカッジャ）／砂浜の上を這うようにして伸び、防砂の役割も果たす

潮が引いているときは、ミスバイヒダから浜に降り、ミーヒーキダツの先まで海岸線を歩いて渡ることが出来ます。洞窟やイノウ（磯池）の生き物を探しながら散策してみてください。

池間島で一番長い砂浜。池間大橋も見渡すことができます。アダンやクサトベラ、モンバノキなど、砂浜の植物が作りだす防風・防潮林の層が豊か。ウミガメの産卵も確認されています。

池間島で一番長い砂浜。池間大橋も見渡すことができます。アダンやクサトベラ、モンバノキなど、砂浜の植物が作りだす防風・防潮林の層が豊か。ウミガメの産卵も確認されています。

池間島で一番長い砂浜。池間大橋も見渡すことができます。アダンやクサトベラ、モンバノキなど、砂浜の植物が作りだす防風・防潮林の層が豊か。ウミガメの産卵も確認されています。

池間島で一番長い砂浜。池間大橋も見渡すことができます。アダンやクサトベラ、モンバノキなど、砂浜の植物が作りだす防風・防潮林の層が豊か。ウミガメの産卵も確認されています。

池間島で一番長い砂浜。池間大橋も見渡すことができます。アダンやクサトベラ、モンバノキなど、砂浜の植物が作りだす防風・防潮林の層が豊か。ウミガメの産卵も確認されています。

島で出会う生きものたち



1. ヘニアジサシ・エリグロアジサシ（ツキヤフ） 2. サシバ（タカ）／10～11月が渡りの時期。冬場も島に留まるタカは「スマバシタカ（島の番をするタカ）」と呼ばれています。 3. オオゴマダラ（アヤハニ）／日本最大のチョウ。 4. オカガニ（アラガフ） 5. ヤツガシラ（カントウツウイ）／「カントウ」とは男性の髪型のこと。池間小学校やグラウンドゴルフ場の芝生などで見かけます。 6. ヤシガニ（マクガン） 7. オキナワチョウトンボ（チョウチョウトンボ）／水質の多い湿地を好み、池間湿原で繁殖。羽化した若いトンボが海岸近くの防風林上空をときまわり餌をとっている様子がよく見られます。 8. オカヤドカリ（アマン）／国の天然記念物。 ※池間島全域は、国の鳥獣保護区に指定されています。

ちよっぴ？ 気になる！



1. 港に積まれた石、石、石…／これは、池間島の伝統漁「石巻おとし」に使われるオモリとなる石です。エサとなる魚と一緒に釣り糸を巻き付け、狙った深さに達するとこの石を振り落とします。この漁法は現在では池間島でしか行われておらず、マチ類やハタ類などの高級魚が釣れます。

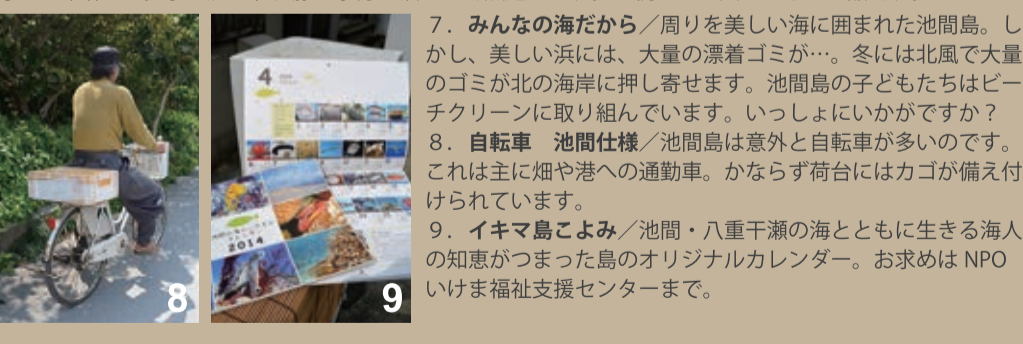
2. きゅーめふから舎の横にある大きな玉／島の人も、これがあるだけでよく知らないとのこと。実は宮古島地方気象台から平良市がもらい受けた気象観測用のレーダードーム。プロヴィデンス号来航 200年のモニュメントとして設置されたとのこと。

3. 地面にあいたたくさん穴／畑、道、花壇、家の庭にまで、島中いたるところに穴が空いています。実はこれオカガニの巣穴。オカガニは陸に棲みながら、幼生期を海で過ごします。繁殖期になると、たくさんのメスが幼生を放つため海岸に降りてきます。

4. 池間の行進曲？／池間行進曲は、池間島の歴史や文化を格調高く元気に歌い上げた池間のご当地ソング。この曲さえ聴けば、池間のことは大体わかります。池間の人はみんな歌えますよ。

5. 大漁旗が一斉に…／漁業の島は旧暦で動いています。旧暦の正月と5月4日には、その年の豊漁と航海安全を願って漁船が一斉に大漁旗を掲げます。色鮮やかな大漁旗が風になびき、島に活気があふれます。なお、トリアスロンの時も、池間大橋に大漁旗が飾られ、色とりどりの旗を見ることが出来ます。

6. 今日はお祝い…スヌーワー／これぞ池間島を代表する名物料理。ワーは豚。大き切った豚肉に味付けは味噌だけ。水は加えず、豚の水分と油だけで蒸込みます。お祝いには欠かせない一品です。



7. みんなの海だから／周りを美しい海に囲まれた池間島。しかし、美しい浜には、大量の漂着ゴミが…。冬には北風で大量のゴミが北の海岸に押し寄せます。池間島の子どもたちはビーチクリーンに取り組みます。いっしょにいかがですか？

8. 自転車 池間仕様／池間島は意外と自転車が多いのです。これは主に畑や港への通勤車。かならず荷台にはカゴが備え付けられています。

9. イキマ島ごよみ／池間・八重干瀬の海とともに生きる海人の知恵がつまった島のオリジナルカレンダー。お求めはNPO いけま福祉支援センターまで。

写真協力 野口武徳・仲地邦博・伊良波満也・戸川剛志・NPO 法人いけま福祉支援センター
与那原義弘・伊良波盛男・サミット会場のみなさん・きゅーめふから舎のみなさん
参考資料 『神秘的リーフ 八重干瀬の葉』 前泊廣美、2011、HOST・M 企画
『八重干瀬（地図）』 前泊廣美、HOST・M 企画
『沖縄池間島民俗誌』 野口武徳、1972、未来社
『池間島の地名 池間島の聖地』 伊良波盛男、2010、池間郷土学研究所
発行日 2014年3月31日
編集 三輪大介・坂田智子
発行 NPO 法人いけま福祉支援センター
宮古島市平良字池間 90-6 TEL 0980-75-2870
HP http://npokema.sakura.ne.jp
このガイドマップは、日本財団の助成を受けて作成しました。

池間島マップ IKEMA Island